

GS04-4 胃がん術後補助化学療法における TS-1 の継続服用に及ぼす要因の探索

○嶋崎 真耶¹, 河添 仁², 高取 真吾¹, 川崎 博己¹, 田中 亮裕², 荒木 博陽², 難波 弘行¹

¹松山大薬, ²愛媛大病院薬

【背景・目的】胃癌術後補助化学療法において、経口抗がん剤 TS-1（テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤）の1年間継続投与が全生存率および無再発生存期間を有意に延長することが報告されている。しかし、長期服用を継続できない患者の存在が問題となっているため、TS-1の継続服用に及ぼす各種要因を検索・同定した。

【方法】2006年8月～2014年2月に愛媛大学医学部附属病院にてTS-1を用いた胃癌術後補助化学療法を施行した患者（88例）を対象とした。除外症例を除いた患者（64例）を1年間服用完遂群（45例）と服用中断群（19例）の2群に分け、TS-1の継続服用に及ぼす各種要因の調査・解析を行った。

【結果】単変量解析結果より、過量投与での開始、スケジュール変更、Stage I、アルブミン<3.3(mg/dL)、クレアチニンクリアランス<66(mL/min)、下剤投与（対症療法）、悪心、白血球・好中球減少の各要因において両群間に有意差が認められた。上記項目に関して多変量解析した結果、アルブミン<3.3(mg/dL)、下剤投与を除く全要因が、TS-1継続服用に著明な影響を及ぼすことが明らかとなった。

【考察】TS-1の投与量を決定する際、薬剤師は過量投与で開始されることを未然に防ぐことが重要である。また、継続服用に伴い発現し得る副作用の早期発見とその経過を継続的に確認し、迅速な対応が必要である。さらに、薬・薬連携を介した副作用発現状況の把握と双方向性の情報共有システムの構築は、安全かつ有効なTS-1継続服用に貢献すると考えられる。